

まちのキラリびと

Let's have fun!
(楽しく行きましょう!)



地域おこし協力隊 **山田 夏子**さん

語学力を生かした『敦賀』の魅力発信

令和4年4月1日から地域おこし協力隊の一員となった山田夏子さん。

異色の経歴の持ち主で、アメリカカボストン生まれのボストン育ち。コロナ禍のリモート学習を利用して、ペンシルベニア大学院に在学中、令和2年から東京と福井を拠点とし、持ち前の語学力を生かして英語教師や翻訳・通訳の業務を生業としながら、山田さんが目標としている映画制作関係の活動を行っています。

その活動の一環で地域おこし協力隊に興味を持ち、持ち前のポジティブさから応募を検討していた際に敦賀市で募集していることを知りました。敦賀市は海水浴で訪問した際に、白砂青松が印象的だったことや宿泊先での人情味あふれる雰囲気、そして、訪れるたびに街並みの景色が変わりゆく敦賀を見て敦賀市で活動することへの意欲をもち、また、地域おこし協力隊の活動内容の「自由さ」にも惹かれ応募を決意し今回就任となりました。

敦賀に住んでまだ日は浅いものの、商店街の方やまちづくりに関する活動をされている方と交流を持ち、敦賀を楽しんでいる様子の山田さん。今後は、まちづくり会社である港都つるが(株)を拠点として、その語学力を生かし市内商店街やお店の魅力、イベント情報をSNSなどを通してグローバルに発信する傍ら、国内外のイベントを探索し、敦賀版のイベント開催を企画したいということです。様々な活動を実施する中でも「自分らしさ」を出していきたいと話されています。

▼委嘱式の様子



▼山田さんの活動拠点「カゲール」



まちの宝を発見！ つるが歴史遺産



大切に守り継いできた
跡もまた文化財です

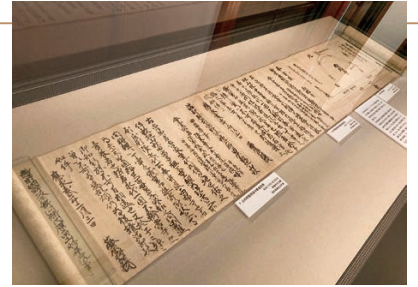
案内人 学芸員 高早 恵美

こうして表装は文書の散逸を防ぐことを意図したと考えられ、そうした努力を経て西福寺文書は現代に伝えられました。文化財保護はその時代ごとに適切と思われる手当が行われてきました。現在では、後の時代のより進んだ技術による修復を見据え、元の姿に戻せるよう配慮して行われます。西福寺の数々の文化財のように、この先もその時代の最善の知恵を集めて文化財を守り継いでいきたいものです。

西福寺文書

基本情報

種別：福井県指定文化財
所蔵：西福寺



▲福井県指定文化財「西福寺文書」

古の敦賀を文字で伝えるアーカイブ

西福寺は県下でも有数の文化財の宝庫です。今年度より修復工事に入る御影堂をはじめ建物、庭園、仏画、経典などが国、県、市の指定になっています。中でも西福寺文書は貴重な中世文書を中心に千件以上からなる一大古文書群です。

西福寺文書の内容は、寺領に関するものや領主層とのやり取り、宗派や末寺に関するものなど様々です。それらの多くは掛軸になっているほか、巻物、冊子にまとめられています。朝廷や領主層からの文書は掛軸にされているものが多く、朝倉義景、織田信長、大谷吉継の禁制などがあります。寺領に関する文書はもとの一紙の状態から種類別に冊子や巻物にまとめられています。

中でも巻物には重要な文書がびっしり連ねられて表装されていて、これが実は博物館泣かせです。市立博物館では毎年西福寺文書を紹介する展示を行っています(今年度は6月15日から)。テーマに合わせて二つの文書を並べたくても長い巻物の最初と最後になってはかたがたありませんし、別のケースで紹介したいのに同じ巻物で隣り合わせになっていることもあります。

広報担当者のつづき

これまでお世話になった職場の先輩がわが社を辞めるといふ。先輩とは、お互いピンク色のネクタイをしていたことから、お互いの服装や雰囲気「ピンク」を使って褒め合う仲でした。先輩から多くの事を学ばせていただきました。新天地でも持ち前の「ピンク」で頑張ってください。(T)

表紙とP2・3の記事を作るため、子育て支援センターに行きました。子どもを撮る際、カメラのフラッシュでびっくりさせてしまい、キャン泣きさせてしまうハプニングもありましたが、かわいい子どもたちばかりで、とにかく癒される取材でした。ご協力いただいた皆さまありがとうございました。(M)